厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

男性不妊の実態及び治療に関する研究

分担研究者　：　馬場克幸　聖マリアンナ医科大学泌尿器科学教室

研究要旨

不妊は男性側に原因があっても妊娠しないが、この男性側に原因のある男性不妊については不明な点が多い。そこで今回、不妊治療の盛んな全国１０施設と共同の質問票を用いて、不妊治療の実態調査を行った.

A．研究目的

聖マリアンナ医科大学における不妊治療の実態調査を行うことを目的とした.

B．研究方法

1997 年１月から 12 月まで，聖マリアンナ医科大学の泌尿器科不妊外来を受診した初診患者について，原因，精液所見，治療に関する調査を行った.

C．研究結果

不妊症患者総数は，122 例であった．原因としては，精巣因子では先天性１例，間脳下垂体性 1 例，精索静脈瘤 52 例，その他 9 例であった．精路因子では，先天性２例，通過障害 17 例，炎症 4 例であった．性機能因子では，射精障害 3 例，性交障害１例であった．精液検査は，117 例に行われた．精液量は，2㎖ 以上が 94 例，2㎖ 未満が 22 例，精子数は，20×10^6/㎖ 以上が 46 例，20×10^6/㎖ 未満が 71 例，無精子症が 32 例，精子運動率は, 50%以上が 42 例, 49%以下が 75 例, 0%が 33 例，精子正常形態は，30%以上が 4 例，29%以下が 110 例であった.

精巣因子の治療では, 非ホルモン療法 44 例，ホルモン療法 4 例，手術療法 19 例であり，精路因子では，精管精管吻合術が 7 例であった.

D．考察

男性不妊症の原因の１つとして，最近，潜在的な射精障害を含む性機能障害が注目されつつあるが，本調査でも性機能因子となるものが 4 例みられた. そのような症例には，今後，性機能外来との連携も必要であり，カウンセリングも治療の１つとなるものと思われた.